

緑からもらったものを緑にかえそう

緑とともに

Toyota・Kamo
豊田・加茂
菜の花プロジェクト

2012年 7月発行

機関紙 第52号

はじめに

暑い季節がやってきます

季節の移り変わりは体調を崩しがちになります。体調も万全に暑い夏を乗りきりましょう。さてプロジェクトは5月12日に無事総会を行う事が出来ました。これからも“菜の花プロジェクト”を宜しくお願い致します。また、楽習会では、講師に藤井絢子氏をお迎えし講演会が行われました。ご来場の方々及び関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。有難うございました。



特集

第7回 菜の花楽習会

楽習会は講演題目を“地域発の食とエネルギーの自立”と題し行われました。講演会は約60名の参加者でした。講師である藤井さんは日本だけでなく、世界各地に出かけられ、いろいろ活動をされていますが講演会は私達の生活に密着しわかりやすくお話下さいました。一部抜粋でお届けします。

講演会の内容

日本の電力は、化石燃料やウランに頼っています。このエネルギーは再生不可能なエネルギーです。

ひとたび、原発が暴走すると、他人事ではいられないのは、ロシアのチェルノブイリ事故で日本は解っていたのです。

しかし、私達は東日本大震災を通じて原発が日本に沢山あることをあらためて認識させられました。

第二次世界大戦で日本と同じ敗戦国であるドイツはチェルノブイリ事故以来、再生可能なエネルギーへのシフトが進みました。

しかも、エネルギーの自由化が進んでいます。

ドイツには、世界各国が注目している、バイオエネルギー村という所があります。

バイオエネルギー村は必要なエネルギーを再生可能で二酸化炭素を出さないもので全て供給する事を目指し作られました。

日本はやっと福島事故以来、再生可能なエネルギーの関心が高まってきました。

今の日本の進むべき道こそ、ドイツの「バイオエネルギー村」にあります。

例えばドイツの「バイオエネルギー村」では年間の日照時間、1000時間をソーラーパネルで有効利用しています。

日本の淡路島ではなんと2200時間も日照時間があるのに有効活用されていないようです。



地域のエネルギーは自分達が監視し、納得する使い方をしなければ意味がありません。他の機関や組織化では、地域の活性化にはならないのです。

これからの日本の為、私達のより良い未来の為、安心できる再生可能なエネルギーを自分達の手で選び活用していける社会にしていきましょう。



NPO法人 豊田・加茂菜の花プロジェクトが考える事とは...

自分の地域から資源を用いてエネルギーを作る事は可能だと思います。何かしら持続可能に使えるものは量が少ないながらもあるはずだからです。以前登場した地産地消ではフードマイレージは少なくなくて済みます。これは、余計なエネルギーを使わないですね。これからは、少ないエネルギーを最大限使用する方法を見つけ使わなくて済むエネルギーは使わない様に心がける生活をしていましょう。



はなおじさんのひとりごと
これから目指すべき生活ってなんだろう



便利な生活を見直し、地球にエゴな生活からエコな生活にシフトし楽しく生活して行くことはとても大切な事です。しかし、エコを追求していくといつしか知らぬ間にエゴになってしまうことがあります。エゴになることは悪いことではなく、周りや繋がりが見えなくなることが悪いのです。

物事を整理し最初から答えを決めつけてしまうと見えるべき、見るべきものが見えなくなります。全体を見渡し物事を多面的、立体的に見るように心がけるとしぜん私達の生活は豊かになることでしょう。自分達が身近にできる事を実行していく、これが大切です。

各コーナー・イベント情報のお問い合わせ先

Toyota Kamo
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト
事務局 梅谷

〒471-0051 豊田市花丘町1丁目17番地
TEL 0565-41-4837 FAX 0565-34-3566
URL <http://www.hanaoka.biz/>

イベント報告



4月28日, 29日, 30日
(土) (日) (祝)

第33回 '12とよたガーデニングフェスタ

今年も恒例のガーデニングフェスタが行われました。当プロジェクトでは、菜の花ドーナツや廃油石けん、豊田・加茂のなのはな油を販売しました。また、日替わりでプロジェクトと関係する団体と一緒にお店を出しました。沢山の方がいらっしゃいました。お手伝い頂いた方々に感謝いたします。



こんな感じに陳列です

お知らせ

第1回 環境教育
猿投台中学校

6/19に予定されていましたが、台風4号の接近の為、学校が環境教育が行われる予定の午後より休校となってしまいました。その日に予定されていた内容は次回の環境教育に行います。第1, 2回合同環境教育の内容は、
○菜種の選別、
○油の搾油、
○オリエンテーション
を予定しています。



報告

【ヘアリーベッチを活用した菜の花を栽培し地力の回復に努めています】

ヘアリーベッチとは・・・マメ科の緑肥作物で、窒素固定とCO₂吸収能力に優れ、地表面の被覆効果が高く根からアレロパシー物質を出し雑草の発生を抑制する。フジのような青紫色の花が咲き、景観作物や蜜源としても利用される。

◎菜の花とヘアリーベッチの環境に優しいコラボレーション

菜の花畑で晩秋にヘアリーベッチを播種しておく、菜の花が咲き終わった次にヘアリーベッチが生育し、その後の雑草を抑えながら土を肥沃化させ、6月に青紫色の花が咲き、景観を形成することもできます。開花後に土にすき込むことで地球温暖化の防止に役立ち、来年の菜の花畑の土づくりにもなる、良いことづくしのコラボレーションです。当プロジェクトでは、試験的にスタジアムの菜の花畑で行いました。結果は良好で、沢山の花が咲きました。

中日新聞 2012年 6月19日 豊田版に掲載されました。



ヘアリーベッチの花です

申し込み方法

・ハガキ
・FAX
・E-mail
のいずれかで

- ①氏名
 - ②郵便番号
 - ③住所
 - ④電話番号
- を記入して右記までお申し込み下さい。



〒471-0051 豊田市花丘町1丁目17番地
TEL 0565-41-4837 FAX 0565-34-3566
E-mail: nanohana@hanaoka.biz

お申し込みはこちら

Toyota Kano
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト
事務局 梅谷

5月12日
(土)

第7回 菜の花楽習会 ～来賓挨拶～

●豊田市長 太田稔彦様・・・「自立型の都市」を目指しています。豊田市は約7割が森林、都市からも近いといった強みを活かしていれば自立したまちが出来ると考えています。



太田 稔彦様

NPO活動について、自分達で責任を持ち、人・金物・情報などを自分達の財源でどれだけ出来、出来ない事を臨時的に依存する「自立型」が大切であるとお話されました。

●豊田市議会議員 杉浦弘高様・・・環境は自然環境と環境産業（環境を大切にしたい産業）の2つに分けられる。純粋な自然環境はお金を産まないの、なかなか推進されていかないように思う。菜の花プロジェクトは、いつも真剣に本当の環境問題に取り組んでいる。一緒に頑張っていきたいとお話されました。



杉浦 弘高様

●愛知県農林水産部 食育推進課 可知祐一郎様・・・「いいともあいち」の食育活動の協力のお礼を述べられ、菜の花プロジェクトの役割は3つある

- ①遊休農地の利用
- ②観光による地域活性
- ③地産地消の推進



可知 祐一郎様

県としても、菜の花プロジェクトの活動をしている団体にPR出展を呼びかけている。今後も頑張ってくださいと激励を頂きました。

醤油試食のアンケートの結果

総会の日、「なのはな醤油」の試食をしてもらいアンケートに答えて頂きました。

Q. 食べた感想はいかがでしたか？



「なのはな醤油」は、お蔭様でご購入された方や試食の時に好評を頂いています。食べたことがない方、是非、お試し下さい。

これからもこの様なありがたい声を追い風に頑張っていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

ご愛読ありがとうございます
次号は、(2012年 9月発行)
「食べる油」
です。お楽しみに！！

